

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 03030040

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	18	住環境の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	良好な住宅・宅地の供給	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	町有施設整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度		担当課	3	税財管理課	
事業主体	雄武町		関係課	2	財務企画課	
事業指標	住環境の整備			12	教育委員会教育振興課	
事業目標	改修工事(3棟6戸)		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加 住民協働	無		関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	旧林務署住宅屋根改修 (2棟4戸) 宮の森荘(お試し住宅及び陶芸工房)改修工事	旧林務署住宅屋根改修 (2棟4戸)	宮の森荘(お試し住宅及び陶芸工房)改修工事 ・陶芸工房内部の梁の鉄骨補強(4箇所) ・屋根全面塗装 ・外装防汚処理及びビコーキング補修 ・軒天板補修			
	事業費(千円)	9,600	2,400	7,200	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	9,600	2,400	7,200			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,342	2,342	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,342	2,342				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		町有住宅改修工事 2,342千円			
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	2棟4戸	1棟2戸		
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	98%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	24%	24%	24%	24%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆				

事業名	町有施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	税財管理課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	管財係長	花松 賢一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町有住宅	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町有住宅改修
【抱える課題やニーズは】	町有施設の老朽化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	良好な住環境の整備	① 町有住宅改修	目標年度 平成25年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な町有住宅の維持管理		目標値 4戸
			実績値 4戸
		②	達成度 100.0%
			目標年度 平成25年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	町有住宅改修工事	日の出仲町町有住宅2棟4戸の屋根塗装工事を実施する。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町有住宅を整備することにより、町有住宅としての活用が推進されるとともに、本町における住宅難の解消にも繋がるため、計画的に事業を進める必要があると判断する。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	住環境整備を進め、入居者を確保しているため有効であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	入札により事業費が抑制されており、改修工事を行ったことにより、良好な住生活の確保及び入居者確保が図られているため、コストに見合った効果は得られていると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町有住宅を整備し、入居者を確保していることにより、本町全体の住宅難の解消にも繋がるため、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
改修工事により施設が延命化され、入居者の確保も図られていることから、今後も計画通りに事業を進めることが適当である。		



継続/現状維持		
住環境を整備し、施設の延命化を図るためにも、今後も計画的に事業を進める必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止